

平成21年度 京都大学図書館機構 実務研修（レファレンス）  
「海外の資料・情報の探しかた講座：中国関係資料編」実施要項

図書館における外国資料の検索・入手にあたっては、主題、文字、言語に関する知識、あるいは検索ツールの選択など、調査担当者の力量や工夫により結果が大きく左右されます。また、対象地域によっては日々の業務の中ではなかなか思うようにスキルアップが図れない場合も多いかと思われま

す。そこで今回は、近隣諸国で歴史的・経済的につながりが深く、かつ京都大学の学問のバックボーンを支える要素の一つでもある中国の学術情報を取り上げ、これらの地域の資料を専門的に取り扱う機関のひとつである国立国会図書館関西館アジア情報課の担当者から、資料の検索・入手に必要なポイントについて講義をしていただき、テーマ知識の習得をはかります。

主催：京都大学図書館機構

共催：国立大学図書館協会近畿地区協会

協賛：大学図書館近畿イニシアティブ

1. 日 時：2010年2月23日（火） 14:00～16:30（受付 13:45～）

2. 場 所：京都大学文学研究科新館3階 情報処理端末室（別紙参照）

3. 講 師：篠田 麻美氏（国立国会図書館関西館アジア情報課アジア第二係）  
齊藤 まや氏（国立国会図書館関西館アジア情報課アジア第二係）

4. プログラム

14：00～14：05 川瀬正幸 京都大学附属図書館事務部長 開会挨拶

14：05～16：15 講義および演習（予定）

1.中国の出版の流れと書誌情報の流通

2.特徴的な資料群

    档案、地方志、デジタルリソース

3.中国語資料の検索と入手（含演習）

    各種情報源と使い方（日本および中国）

16：15～16：30 質疑応答

16：30 終了

5. 対 象：京都大学図書系職員および近隣の大学図書館職員

※「ピンイン」により中国語の文字入力ができる、もしくは研修までに入力方法を自習のうえ参加することが望ましい。（検索語のピンイン表記は準備しますので、中国語そのものの能力は問いません。また中国語入力の方法は、別紙のウェブサイト等もご参照ください。）

※応募が多数の場合、閲覧・参考業務で中国語および中国関係資料を扱う方、または中国関係図書の収書業務担当の方を優先します。

6. 内 容：講義とともにインターネットを用いて演習を行います。なお受講決定者には簡単な事前予習課題を課します。
7. 受講定員：40名（応募が多数の場合は調整します）  
受講の可否：受講可／否いずれの場合も、結果をメールでご連絡します。
8. 申込方法：申込用 Web フォームから必要事項をご記入の上、お申込下さい。  
<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/kenshu/archive/100223reference/>  
申込締切日：2010年2月9日（火）
9. 企 画：京都大学図書館機構
10. 協 力：国立国会図書館  
青山学院大学総合研究所 eラーニング人材育成研究センター
11. 問合せ先：京都大学附属図書館総務課  
図書館専門員（企画・広報担当） 中村節子  
Tel:075-753-2691 Fax: 075-753-2629  
E-mail: [setsukon@kulib.kyoto-u.ac.jp](mailto:setsukon@kulib.kyoto-u.ac.jp)

【中国語の入力を紹介しているウェブサイトの一例】

- 「中国語の特徴」 (『在线中国語講座』)

<http://www.zaich.com/rumen/rm02.html>

- 「「中国語入力」の実際」 (スペースアルク『パソコンで中国語』)

<http://www.alc.co.jp/china/study/pc/03/03-02.html>

- 「微软ピンイン输入法2.0の使い方」 (千田大介氏『電腦瓦崗寨』)

<http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/index.php?%E4%B8%AD%E6%96%87%E9%9B%BB%E8%84%B3%2F%E5%BE%AE%E8%BB%9F%E3%83%94%E3%83%B3%E3%82%A4%E3%83%B3%E8%BC%B8%E5%85%A5%E6%B3%952.0%E3%81%AE%E4%BD%BF%E3%81%84%E6%96%B9>

【会場案内地図】 会場へのアクセス詳細 URL : <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/access/>

